

# ダイズ病害虫判定シート

- ほ場で主要病害虫を見分ける -

## 主に葉を加害する害虫

**ハスモンヨトウ** (老齢幼虫40mm)  
若齢幼虫は集団で葉裏を加害し、白変葉を生じさせる。中齢以降の幼虫は分散し、葉を暴食する。幼虫にはほとんど毛がなく、頭部の後方の節に、1対の黒斑が目立つ。



若齢幼虫の加害  
によってできた白変葉

密生する  
若齢幼虫

老齢幼虫



様々な体色の幼虫

**タバコガ類** (老齢幼虫40mm)  
葉やさやを食害する。局地的に大発生することがある。幼虫の体色は緑色、淡黄褐色、茶褐色など様々。体節ごとに短い毛が生えているのが特徴。

**ウコンノメイガ** (老齢幼虫20mm)  
葉を巻いたり、数枚を重ね合わせて、その中に潜む。さやや子実には加害しない。



巻かれた被害葉

幼虫



幼虫

**ヨモギエダシャク**  
(老齢幼虫60mm)  
尺取り型の歩行をする。小枝に擬態するため、見逃しやすい。

**マメドクガ** (老齢幼虫40mm)  
若齢幼虫は集団で葉裏を加害し、中齢以降は分散する。背面に暗褐色の毛束がブラシ状に生えている。



老齢幼虫

密生する  
若齢幼虫

**コガネムシ類**  
成虫が網目状に葉を食害する。滋賀県では主に以下の2種が多い。



食害痕

マメコガネ

ヒメコガネ

(成虫12mm)

(成虫15mm)



吸汁痕

**アブラムシ類** (成虫2mm)  
葉裏に寄生し吸汁する。加害部位はくっきりと黄化することがある。各種ウイルス病を媒介する。



吸汁により黄変した葉

葉裏への寄生  
(オレンジ色の点がハダニ)

顕微鏡による  
拡大像

ハダニ類 (メス成虫0.6mm)

葉裏に寄生し吸汁する。吸汁部位は白点となり、多発生すると黄変した葉が坪状に目立つようになる。

## 主に葉とさやを加害する害虫

**サヤムシガ類**  
(老齢幼虫13mm)  
若葉をつづり合わせて縮れさせ、その中に潜んで食害する。さやも加害する。



さやの被害

つづり合わせ  
られた新葉

幼虫



成虫

葉の食害痕

**フタスジヒメハムシ** (成虫3.2mm)  
黄色の甲虫で背面に1対の黒条がある。葉を円孔状に食害し、さやや子実にも被害をもたらす。

## 主に子実を加害する害虫

マメシクイガ (老齢幼虫10mm)  
さや内に食入し、子実を食害する。  
幼虫の体色は乳白色～オレンジ色。



幼虫

シロイチモジ  
マダラメイガ  
(老齢幼虫20mm)  
さや内に食入し、子実を食害する。幼虫の体色は緑色または紅紫色。



幼虫

カメムシ類 子実を吸汁加害し、収量や品質の低下をまねく。青立ちの一因ともなる。



成虫



幼虫



成虫



成虫



幼虫



成虫

アオクサカメムシ  
(成虫15mm)  
体全体が緑色だが、一部胸部に黄帯がある個体もいる。

イチモンジカメムシ  
(成虫11mm)  
体は淡黄緑色で、胸部に紅色または白色の帯が1本ある。

プチヒゲカメムシ  
(成虫13mm)  
体は赤褐色で、触角や腹部外縁が白と黒のまだら状となる。

ホソヘリカメムシ  
(成虫17mm)  
体は細長く暗褐色。若齢幼虫は一見アリに似る。

## ダイズの病害

べと病  
葉表に不整形な黄白色の病斑ができる。その裏には綿毛状の菌糸が認められる。子実にも感染する。



葉表の病徴

葉裏の病徴

葉焼病  
葉に黒褐色の小斑点ができ、その周囲は黄化する。葉裏の病斑中央部が盛り上がる。



立枯性病害 一見同じような被害だが、病原菌は複数存在する。



茎疫病  
茎に地際部から上方に向かって黒褐色の病斑が伸びる。葉の黄化や立枯れをおこす。



被害株地際の病斑



白絹病  
被害株の地際～地下部には白色絹糸状の菌糸が認められる。粟粒状の菌核が付着することもある。

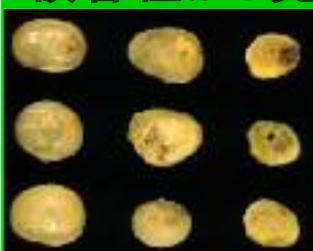


被害株地際の菌糸と菌核



黒根腐病  
下葉が黄化する。地際に茶褐色の病斑ができ、その上に赤色の小点が形成されることがある。

## 被害粒から見分ける病害虫



カメムシ類による被害



フタスジヒメハムシによる被害



紫斑病  
子実に紫色の斑点ができ、品質低下を招く。立毛時にも葉や茎に発病するが、他の病害との区別が難しい。

モザイク病による褐斑粒  
アブラムシ媒介によるウイルス病。葉には萎縮やモザイク症状、さやには茶褐色の斑点を生じる。

